

令和元年度 自己評価

綾東こども園

1. 園の教育目標

事業の目的

「園の主人公は子どもである」という一貫した基本認識に立ち、園の運営・教育・保育は「子どもの最大の利益を図る」ことを念頭に置きながら、地域に根差しその活性化に貢献していく

教育・保育方針

生きる力の基礎を育み、豊かな人間性を持った子どもを育てる

保育理念

子ども一人ひとりを大切に、保護者から信頼され地域にも愛されるこども園をめざす

綾東こども園が育てる子ども像

☆丈夫な心と体で終わりまで頑張るこども

☆思いやりを持ち友だちと仲良く遊べるこども

☆豊かな感性と創造性をもつこども

2. 本年度の目標・計画

- ・一人ひとりに寄りそった保育の推進
- ・主体的に自然に親しんで五感を育て、またあそびを通して協調性や協働性を育ていく
- ・保育の質の向上を図る

3. 評価項目の達成及び取組状況

主な評価項目	取組状況
教育及び保育 ・全体的な計画等	<ul style="list-style-type: none">・新年度職員会議にて、全職員に理念をはじめ方針、全体的な計画などを配布し、読み合わせや意見交換をした上で周知を図る。・子どもを主体的に考えた行事のありかたを話し合い、誕生会や運動会の従来の形を工夫する。・1歳児が増員したため、部屋の使い方を変える。それに伴い、4,5歳の縦割りでのランチルーム方式を導入し、あそびや生活の時間を確保し、個々に寄り添えるよう改善をした。
・教育及び保育の内容	<ul style="list-style-type: none">・全学年で自然環境を積極的に取り入れた保育を推進する。職員間で情報交換をし、あそびの共有ができるようにした。・園内研修として通年で臨床心理士を講師に招き、一人ひとりの成長に寄り添った関わりや保護者支援を重点的に学ぶ。・身体表現をテーマにした園内研修も引き続き行い、子どもの内面からの表現を引出し、育ちの蓄積を確認する。研究成果については、日本保育学会でポスター発表を予定している。

主な評価項目	取 組 状 況
<p>・教育・保育の記録等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで年間カリキュラム・月週案を作成 ・個別記録を日々行い、年度末に全園児の指導要録を作成して引継ぎ資料にしている ・乳児・支援児については個別の指導計画を作成し日々の記録をとっている
<p>幼小中連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東綾、上林両小中一貫校とは年間の連携計画に基づき、小学校に訪問したり、園に招いたりして小学生との交流を頻繁に行った。進学校とは違って小学校を訪問したり、上級生に優しく接してもらったりすることで小学校への期待感が高まる経験ができた。 ・中学生の職場体験を通して小中を通した育ちの課題を教育現場の先生方と共有する機会となった。
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者と全職員が、該当児の発達の変化や、具体的な支援の方法など情報共有し、安定した関わりができるよう職員会議やミーティングで機会を設けた。 ・必要に応じて保護者との面談を行い、保護者の気持ちに寄り添いながら、クラスまたは園の中で無理なく楽しく過ごせる手だてを探っていた。 ・外部の関係機関を訪問したり面談したりしながら、該当児にとって必要な支援や育ちの援助について情報共有した。
<p>虐待防止等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急性のある事態は発生していない。支援が必要とされる家庭には、行政関連機関等と連携し対応している。
<p>健康・衛生管理 事故防止・安全対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルを整備し安全管理を実施している。 ・毎月避難訓練を実施し、園児や職員それぞれに必要な安全や対策の意識を高めていっている。 ・園庭や運動ひろば、遊具などの安全点検を毎月職員が行っている。不具合があった場合には対策を考えている。
<p>地域との連携 ・子育て支援 ・地域との関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児子育て支援拠点事業「たけのっ子くらぶ」で、園や地域の公民館で週2回催事を行い、また毎日のように園庭開放をする。催事の内容によっては訪問する保護者の雰囲気かわるので、いろいろなタイプの保護者支援ができるように仕組みや内容、情報発信の方法に試行錯誤を行う。 ・一時預かり事業では、園児数の増加により希望に沿えないこともあったが、専任の職員を配置し徐々に該当のクラスで行動できるように慣らしていった。 ・HPやブログの発信だけでなく、園だよりを回覧して情報提供をして園の様子を身近に感じてもらえるようにしている。 ・地域や地域の高齢者施設の皆さんを、行事に招待したりあそびに行かせてもらったりして積極的に交流を行い、ふれあいを大切にしてきた。

主な評価項目	取 組 状 況
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> •畑やプランターで栽培した野菜を収穫したり、クッキングをすることで、食に興味をもったり苦手な野菜を食べられるようになったりしている。 •献立には旬の食材を取り入れ季節を五感で味わえるようにしている。また栄養士も一緒に簡単なおやつクッキングをして楽しんで食育に取り組んだ。

4.園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

理 由
<p>•保育教諭はじめ関わる全職員が、養護を基盤にした子どもの育ちの保証を掲げるところを理解し、連携をとりながら丁寧な保育教育をしている様子が見られた。</p> <p>しかし、振り返りや自己評価に対しては、計画通りに研修が進まなかったこともあり、課題が残る。</p> <p>恵まれた自然環境をいかした活動を多く取り入れることができた。室内の環境構成も子ども達の主体的な活動を促すことを考えており、目標達成のために努力できた。</p>

5.今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> •PDCAサイクルにのっとり日々の保育教育を振り返りながら、養護に基づいた子どもとの丁寧な関わりや、子どもの成長に寄り添った指導計画が立案できるように園内研修を行い、自己研鑽に取り組んでいく
保育教諭の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> •研修、園内研修を通して、集団でまた個々の子どもの成長や発達を見極め、その時に必要な支援や環境作りの学びを深めていく。 •あそびを通した子どもの成長のため、自主的かつ発展的な見通しをもった指導のスキルを身につけていく。